



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: [kokyucen@ra.opho.jp](mailto:kokyucen@ra.opho.jp)

## 妊娠中の風疹感染

妊娠前に一度風疹抗体価を調べてみましょう

感染症センター長 まつもと 松本 ともしげ 智成

.....

妊娠中に特に気をつけないといけない感染症として、風疹があります。風疹感染では、妊娠初期～中期（妊娠4週～16週頃まで）に感染した場合に問題となります。

この頃は器官形成期といい、赤ちゃんが様々な器官を形成している時期です。この時期に、風疹に感染すると胎児に異常が起こりやすくなります。風疹に罹患した時期によっても胎児の障害の程度は異なりますが、だいたいの主な胎児の異常としては、先天性心疾患、眼症状（白内障、緑内障、網膜症など）、聴覚障害（主に感音性難聴といい、中耳から脳に原因がある難聴）などがあげられます。

風疹にかかったことがあるかどうかは、子供の時の通知票を見るとヒントがあるかもしれません。3～4日の出席停止の記載が残っていたら、それは風疹が理由だったかもしれません。風疹は流行年があります。日本では、1976年、1982年、1987年、1992年の春に大流行が起きています。風疹に自然感染した人の7～8割は、この時期にかかっています。

まず大切なことは、自分が風疹に感染したことがあるかどうかを思い出すことです。覚えていない方は、ご両親やご兄弟に聞いてみましょう。

なお、一度風疹にかかった人がまたかかってしまう「再感染」もあるのですが、これは風疹にかかる人全体の5%くらいです。再感染による先天性風疹症候群の赤ちゃんは1999年から2003年までのあいだに1例しか報告されていませんから、かなりまれなことです。

風疹は終生免疫と言って、一度感染すると二度とかからないと言われてきましたが、再感染をすることもあることがわかってきており、またワクチン注射も100%効果がある訳ではなく、予防接種しているにも拘わらずいつの間にか免疫がなくなって罹患することがあることもわかってきています。

ですから、これから妊娠を考える方は、妊娠前に一度風疹抗体価を調べておいて、自分が風疹に対して免疫があるのかどうかを知っておくようにするのが望ましいでしょう。妊娠中は風疹の予防接種が出来ないので、もし、抗体価が低ければ妊娠前の予防接種をお勧めします。

なお、1979年から1987年（昭和54～62年）生まれの人の約半数は、風疹の予防接種をしていないそうです。上記期間に相当する生まれの方も、できれば妊娠前に風疹抗体を持っているかどうかを検査して、もし抗体を持っていない場合にはあらかじめ予防接種をしておくことをお勧めします。

また、予防接種によって獲得した抗体は数年以上経過すると消失してしまう場合もあります。だから予防接種をしているからといっても必ずしも妊娠する時点で抗体を持っているとは限りません。これから妊娠を考えている場合にはやはり事前に風疹抗体があるかどうか血液検査で調べておくとうい良いでしょう。



# 11月の教室案内

*カンガルー教室	●11月2日・16日・30日	午後1時半～	第1会議室
*喘息教室	●11月17日	午後2時半～	第2会議室
*禁煙教室	●11月10日	午後3時45分～	医療情報コーナー

## 重症の喘息 ～新しい治療～

アレルギー内科副部長

まつの おさむ  
松野 治

ぜんそくは気管の粘膜に好酸球という白血球が中心に集り、炎症を起こしています。この炎症により、気管が過敏な状態となり、アレルギーを起こす物質（ホコリ、花粉、カビ、動物の毛等）や、冷氣、カゼなどの刺激があると、気管が収縮して内腔が細くなります。その結果、呼吸をするとゼーゼーしたり、息苦しくなります。治療としては、気道の炎症を抑えるため、吸入ステロイド療法が基本となっています。この治療で効果が十分でなければ、 $\beta$ 刺激薬（気管支を広げる薬）、抗ロイコトリエン拮抗薬、テオフィリン製剤等を使ってコントロールします。



色々治療を行っても、ぜんそく症状が続くひとが一部におられます。このよう

な、ぜんそく患者さんに対しては、ステロイド内服を行います。吸入に比べて多くの量を内服するため、副作用（骨粗鬆症、糖尿病、免疫力低下等）の心配があります。ぜんそくをおこす原因として、IgEという抗体を介したアレルギー反応があります。ダニなどの特定の物質（抗原）に対するIgEの値が高い場合、アトピー型ぜんそくと言います。最近このIgEに対する抗体が製品化（オマリツマブ）され、IgEを介した反応を抑えることが出来るようになりました。今までの薬とは違い、アレルギー体質を、抗体を投与することで変えようというもので、体質改善を行う薬ともいえます。現在当院にても投与を行っており、多くの患者さんで効果を認められています。

## <臨床検査科の紹介シリーズ⑪>

### 採血室について

臨床検査科副技師長

なかすじ たかし  
中筋 孝史

この1年、検査室の紹介と検査に関する話題を取り上げてきましたが、検査結果を正しく出すためには、材料としての検体（血液・喀痰・尿など）が適切に採取されている必要があります。そこで今回は採血室を紹介したいと思います。

採血室は、看護師と臨床検査技師の協力で運営されています。時々採血中に気分を悪くされる患者さんがいらっしゃいますが、そんな場合すぐに看護師が血圧、脈拍、呼吸数などを測定し、適切な処置をします。また、めったに出ないややこしい検査のオーダーが出た場合、30種もある採血管からその種類や、採血量を臨床検査技師がすぐに判断して準備します。それぞれの得意な分野を受け持ち、かつ採血業務は両方が受け持っているのです。このように可能な限り、患者様をお待たせすることなく安心して採血していただけるように心がけています。

血液は血管の外に出ると徐々に固まる性質があります。採血しにくい方や、小さなお子様で、採血に時間がかかったり、少量しか採血できなかつたりした場合、稀に目には見えない小さな塊ができることがあります。このような検体では正確な検査結果が得られません。こんな時は少しお待ちいただき、分析器で直ぐに測定して問題ないかどうか確認します。万一、問題がある場合は再度採血させていただくこともあります。また、小さなお子様で、血管が細かったり、期せずして動かれたりすると、どうしても採血できないことがあります。その場合は診療科で採血していただくこともありますのでご理解いただきますようお願いいたします。

喀痰は喉の奥から出た黄色っぽいものが検査には適しています。直ぐに出なければ、別の日に朝起き抜けの痰を採り、採血室にお持ちしていただいても結構です。採血は痛くて誰でも嫌ですね。自分の順番が来ると心臓がどきどきして、緊張してしまいます。何回やっても慣れないものです。失敗された経験のある方は更に緊張するでしょう。もし、自分と相性の良くない採血担当がいれば、受付のときその人に当たらないようにしてもらるか相談してみてください。きっと相談に乗ってくれるはずですよ。

